



定住環境プランナー  
中村 周子

# 空き家にしない考え方

## 第3回 集落活性化計画とは

「集落活性化計画づくり」に取り組む他の市町村の例をご紹介します

第1回、第2回と、集落活性化計画の中で空き家対策に取り組んでいくお話を書きました。今回は集落活性化計画とはどのようなものかご説明します。具体的なイメージがしやすいと思いますので、実際に取り組んだA市の自治会が作成した「地域活性化ビジョン」をご紹介します。

この自治会は平成26年(2014年)の人口が261人でしたが、令和6年(2024年)には198人まで人口が減るというシミュレーションに危機感を覚え、このビジョンを作成したそうです。作成した集落活性化ビジョンは、A市のホームページに掲載されています。

集落活性化ビジョンの内容は、ビジョンを作成した経緯や人口シミュレーションなどの話の後に、自治会の皆で考えた「困っていること」「この集落の魅力」「ここでの暮らしを続けていくために大切にしたいこと」が記されています。そして、これをもとに、「これから取り組むアイデア」をまとめています。一部ですが、どんなアイデアがあったか紹介します。

取り組みの内容	誰が取り組むのか？		
	個人で	自治会で	行政や外部と連携
バーベキュー場を整備して、みんなでバーベキュー		○	
集落のスナックを作る		○	
遊休農地で、行者ニンニク・エゴマを栽培		○	
空き家や空き地の利用、駐車場の整備	○	○	○
健康のために日々歩く	○		
万歩計の歩数を km に直して距離を競争	○		○
獅子舞(伝統行事)の会で、年齢が上の方は改革、下の方は依頼を受け入れる	○	○	

この自治会の作った計画の素敵なところは、誰が取り組むのかという表があったことです。行政と一緒に取り組む大きな計画や、個人でできる小さな取り組みまで、色々な計画が盛り込まれていました。

### 集落活性化計画の作成方法

集落活性化計画や集落活性化ビジョンを作っている自治会は全国にあります。どのように計画を立てていったかを調べると①地域の現状を確認、②どんな地域にしていきたいかを話し合う、③これから取り組むアイデアを考える、というステップで作成しているようです。話し合いの方法は、会議のような形式ではなく、ワークショップのような、皆で手を動かしてアイデアを出していく方法です。お茶やお菓子を持ち寄って、楽しい雰囲気での話し合いを進めて行ったようです。(続く)